

## 1 山梨県内公共図書館の概況 <令和6年度>

市町村立図書館の動きとしては次のようなものがある。市川三郷町では令和5年度に公表した行財政改革推進計画に基づき、3月末に三珠分館及び六郷分館を閉館し、令和7年4月からは市内3館あった公共図書館を1館に集約することとした。

甲府市立図書館では5月に給水ポンプ故障のため臨時休館となったが、休館中は臨時窓口を設置し、貸出、返却、予約受付などの対応を行った。南部町立南部図書館では施設の大規模改修工事のため、7月から翌年2月まで休館した。

南アルプス市、笛吹市、中央市、昭和町、山中湖村、富士河口湖町で図書館システムの更新を行った。南アルプス市ではこれに合わせて電子図書館サービスを開始した。中央市、富士河口湖町では新たにInstagramを開設した。

富士吉田市立図書館は館内の一部本棚を個人・団体に貸し出す「ひとハコ図書館」サービスを開始した。上野原市立図書館では4月と10月に移動図書館車ステーションを増設した。富士川町立図書館は開館2年目を迎え、学校連携システムを順次開始するとともに、6月から町内保育施設等への配本サービス、3~5歳児向けおはなし会、出張おはなし会を開始するなど児童サービス充実を図った。

笛吹市御坂図書館は開館20周年を記念して「メッセージで桜の花を満開にしよう!」などのイベントを開催した。昭和町立図書館では令和7年に開館35周年を迎えることから記念事業として「記念マスコット募集」や「図書館・書店・本とのちょっといい話大賞募集」を実施した。韮崎市立大村記念図書館では館内に「俳句ポスト」を設置し、投句を現代俳句協会に送付する取り組みを開始した。富士河口湖町生涯学習館では10月に図書館50周年祭を開催し、記念の展示や貢献者への感謝状贈呈などを行った。

12月、全国各地のビブリオバトルに関するユニークな取り組みを表彰する「Bibliobattle of the Year 2024」において、10年間にわたって活動を積み重ね、様々な人や組織をつないで輪を広げてきたことが評価され、甲州市立塩山図書館が大賞を受賞した。

甲府市が「第2次甲府市立図書館基本計画」及び「第4次甲府市子どもの読書活動推進計画」を、北杜市が「ほくと子ども読書の杜プラン（第四次北杜市子ども読書活動推進計画）」を、甲斐市が子ども読書活動推進計画の内容を盛り込んだ「第3次創甲斐教育推進大綱」をそれぞれ3月に策定した。

県立図書館の動きとしては、10月に図書館システムの更新を行った。ホームページリニューアル、山梨県図書館情報ネットワークシステムの改修、自動貸出機などのマイナンバーカード対応も合わせて実施した。やまなし読書活動促進事業の一環として、11月には神永学氏を、2月にはアーサー・ピナード氏を迎え、講演会を行った。「第11回贈りたい本大賞」では、応募総数4,422点の中から大賞3点などを決定し、11月に表彰式を実施した。8月には都留文科大学にて開催された、やま読フォーラム「デジタル時代の「本」を考える」で金田一秀穂館長が講演を行った。指定管理者の自主事業として11月に「山梨県立図書館まつり」を開催し、山梨県出身の元水泳選手・萩原智子氏による読み聞かせやトークショーなどを行った。

その他の動きとして、山梨県公共図書館協会と中央市が主催する「第37回山梨県図書館大会」が開催され、児童書作家、ストーリーテラーである杉山亮氏による講演会と、司書の人材育成に関連する2分科会が設けられた。館種を問わず228人の参加があった。やまなし読書活動促進事業実行委員会では、出版業界が中心となって全国で読書推進を展開する「BOOK MEETS NEXT」の共催事業として、初の大型イベント「YAMADOKU BOOK FEST. 2024」を11月16日・17日に山梨県防災新館やまなしプラザほかで開催した。作家の講演会やサイン会、出張本屋、ビブリオバトルなど多彩な催しを行った。